



Japan Society of Internship
and Work Integrated Learning

日本インターンシップ学会 NEWS LETTER

2014 年度 NO.1

目次

- ・ 第 15 回大会を開催して
- ・ 第 16 回大会を開催するにあたって
- ・ 理事会報告
- ・ 2014 年度総会報告
- ・ 2013 年度事業報告及び決算報告
- ・ 2014 年度事業計画及び予算
- ・ 会則改正について
- ・ 年報編集委員会報告
- ・ 広報委員会報告
- ・ 2014 年度(第 8 回)高良記念研究助成対象者決定
- ・ 企画研究 WG 報告
- ・ 楨本記念賞 WG 報告
- ・ 支部活動報告
(北海道支部、関東支部、関西支部、九州支部)
- ・ 事務局からのお知らせ
- ・ 会員情報

第 15 回大会を開催して

9 月 6 日(土)・7 日(日)の 2 日間、第 15 回大会を北九州市立大学で開催いたしました。参加者 147 名という非常に多くの方にご参加いただきました。誠にありがとうございます。

今大会のテーマは「地域協働・産学連携教育のかたち」とさせていただきます。企業等における 1~2 週間程度の就業体験にとどまらず、産学連携教育、ボランティア活動による Service Learning、課題解決型 Project-Based Learning など、広義のインターンシップが Work Integrated Learning/WIL (職業統合的学習) と捉えられるようになってきたことを受けてのテーマ設定でした。様々な WIL の実践事例発表やシンポジウム、研究発表を通じ、新しい「インターンシップ」のかたち、在り方を考える機会になったのではないのでしょうか。

一日目は、開会宣言に引き続き高良記念研究助成発表として 3 名の方にご発表いただきました。午後からはまず、学生たちに実践活動の成果発表を行っていただきました。企業インタビューを通じて仕事理解を深める、農業の 6 次産業化、外国人にも住みやすいまちづくり、まちなかのにぎわいづくりといったテーマで活動している学生たちの発表は、その成長や課題などがリアルに感じられました。その後のシンポジウムでは、法政大学の長岡健先生をコメンテーターに、学生プロジェクトに関わっている教員や受け入れ先担当者に、課題や成果について議論を深めていただきました。WIL が大学教育として「成立」するためのヒントを得ることができたと思います。終了後の懇親会は約 80 名にご参加いただき、小倉祇園太鼓の演舞も手伝ってたいへんな盛り上がりを見せていました。

二日目は自由研究発表を行いました。5 教室 27 件の研究発表があり、過去最多の発表件数を記録したようです。しかし、事例発表が多く、研究的分析的視点からの発表を増やしていくことが今後の課題となりました。

また、お楽しみ企画としてエクスカッションツアーを実施しました。一日目懇親会終了後は「角打ち体験ツアー」に 15 名の方にご参加いただきました。「はしご」を

したいへん盛り上がったと聞いています。二日目午後からは「小倉歴史まちあるき」を学生たちにご案内させていただきました。こちらにも 10 名の方がご参加され、小倉の歴史、文化を感じていただいたのではないのでしょうか。

私自身はじめての学会開催であり、お引受けしてからずっとプレッシャーを感じ続けておりました。しかし、九州支部のメンバーが、それぞれの得意な能力をいかんなく発揮していただきつつ、月 1 回の実行委員会でその進捗を確認しながら着実に準備を進めることができました。お陰様で大きなトラブルもなく、何とかスムーズな大会実施が実現したのではないかと思います。ただ、おもてなしの面では参加者の皆様に十分にご満足いただけない部分があったかもしれません。この場をお借りしましてお詫びを申し上げます。

最後に、次年度の近畿大学での第 16 回大会が更に盛会になることを願っています。

(第 15 回大会実行委員長 眞鍋 和博・北九州市立大学)

第 16 回大会を開催するにあたって

平成 27 年 9 月に第 16 回大会を近畿大学・東大阪キャンパスで開催する運びとなりました。近年、4 支部持ち回りの大会開催が定着しておりますが、関西支部では、平成 23 年の鳥取大学(第 12 回大会)以来の大会開催となります。平成 27 年 8 月には、関西支部で活躍中の京都産業大学において WACE (the World Association for Cooperative & Work-Integrated Education) の第 19 回世界大会が開催されますので、第 16 回大会を合流あるいは近接日の開催とできないか検討したのですが、諸事情で難しいことが分かりました。そこで、9 月に近畿大学で開催することとなった次第です。

関西地区(特に京都府と大阪府)は首都圏に次ぐ大学集積地であり、全国シェアで見ると、大学数・学生数とも人口シェアを大きく上回ります(関西の人口シェア 16.3%に対し、大学数シェア 19.5%、学生数シェア 20.4%<文部科学省「学校基本調査」2012 年ほかより筆

者計算：因みに首都圏は人口シェア 33.4%、大学数シェア 32.8%、学生数シェア 44.0%）。これに対し、関西経済は地盤沈下を続け、県内総生産の全国シェア（2011年度 15.6%）は人口シェアを下回ります。これは、一人当たり県内総生産が全国平均を 5%近く下回ることを意味します（他方、首都圏のシェア 38%＜一人当たり県内総生産は全国平均を約 14%上回ります＞）。地域経済が低調な中、関西地区では、域内大学の魅力向上のため、大学間の連携を図る“大学コンソーシアム”が盛んです。特に「公益財団法人 大学コンソーシアム京都」が全国でも突出して意欲的な取組を行っているほか、「特定非営利活動法人 大学コンソーシアム大阪」や「特定非営利活動法人 南大阪地域大学コンソーシアム」も熱心に活動しています。具体的な大学間連携としては、単位互換のほか、インターンシップにも力を入れています。第 16 回大会では、こうした関西地区における大学間連携のインターンシップなど、関西での特徴的な活動についてご紹介したいと考えています。

次に、大会開催校の近畿大学ですが、東大阪市にメインキャンパスを持つ総合大学です。東大阪キャンパスには、文系 5 学部（法学部、経済学部、経営学部、文芸学部、総合社会学部）と理系 3 学部（理工学部、薬学部、建築学部）があるほか、西日本に広がる 5 キャンパスに理系 5 学部（医学部＜大阪＞、農学部＜奈良＞、生物理工学部＜和歌山＞、工学部＜広島＞、産業理工学部＜福岡＞）があります。インターンシップには学部単位で取り組み、全学で毎年千人前後参加していますが、キャリアマネジメント学科を有する経営学部が独自の先進的な仕組み作りを行って成果を挙げているほか、キャリアセンターも全学のサポート体制を整えています。また、本部外のキャンパスでは、地元と連携したインターンシップに取り組んでいます。こうした活動についても、ご紹介する機会を設ける予定です。

最後に、東大阪キャンパスから徒歩圏内に「司馬遼太郎記念館」がありますほか、電車を使えば史跡や国宝の豊富な奈良にも近いところ（さらに、近鉄奈良駅から JR 京都駅まで近鉄特急で 35 分）ですので、近畿大学の周辺についてもお楽しみ頂ければ幸いです。皆様にご満足頂けるような大会にしたいと関係者一同張り切っております。多くの皆様のお越しをお待ちしています。

（第 16 回大会実行委員長 安孫子 勇一・近畿大学）

理事会報告

2013 年度第 5 回理事会（@北海道武蔵女子短期大学）

(1) 入退会申請について

入退会の申請者について、すべて承認された。

(2) 第 15 回大会について

眞鍋第 15 回大会実行委員長より大会開催準備の進捗状況について報告がなされた。

(3) 企画研究 WG 報告

亀野委員長より、昨日 6 月 7 日に予定していた論文作成にかかる企画は開催を見送ったことが説明された。ま

た、本学会が後援しており 8 月 30 日に京都産業大学で行われる「WACE 世界大会 in Kyoto プレ大会」について、説明がなされた。これをうけ、吉本会長より、学会の国際化対応について問題提起があり、特に 2015 年度の全国大会と WACE 世界大会（於：京都産業大学）との関係について出席者間で意見交換が行われた。

(4) 2014 年度高良記念研究助成の募集締切延期について

吉本会長より、高良記念研究助成の募集締切について、当初は 6 月 13 日までとしていたが、ニューズレターの発行時期ずれこみもあり会員の応募準備期間を十分確保する観点から、6 月 30 日まで延長したい旨説明があり、了承された。

(5) 会則等の見直しについて

吉本会長より、来年度が役員を選出時期にあたることから、以前よりその見直しについて議論してきた現会則のうち、役員を選出方法と役員の任期、さらに役員の数については早急に見直しを行う考えである旨、そのために 8 月 9 日の理事会で成案をまとめ、9 月 6 日の総会に諮りたい旨、説明があった。さらに改定の素案とその趣旨が説明された。協議の結果、同素案を全役員に還流して意見聴取を行い、その内容を次回理事会で取り扱うこととなった。

(6) その他

吉本会長より、3 月末に加藤理事より理事を辞したいとの申し出があった旨説明があり、この申し出を了承した。なお、補欠の理事は置かないこととなった。

(7) 各委員会・ワーキンググループ報告、各支部報告

各委員長、支部長等より説明があった（詳細は本 NEWS LETTER の記事を参照願います）

2014 年度第 1 回理事会（@大阪府立男女共同参画・青少年センター）

(1) 入退会申請について

入退会の申請者について、すべて承認された。

(2) 2013 年度事業報告（案）について

長尾事務局長より、資料に基づき説明があり、協議の結果、原案どおり了承された。

(3) 2013 年度決算（案）について

長尾事務局長より、資料に基づき説明があり、協議の結果、一般会計の「大会開催費」の決算や「事務管理費＞その他運営費」の予実差異等、特徴的な金額となっているいくつかの項目については、特に総会での対応として必要な説明等を講じることとしたうえで、了承された。また、「大会開催費」の大会実行委員会への入金時期については、近年の大会の開催時期が以前より早期化し、大会実行委員会の活動開始も早まっていることから、2014 年度の第 15 回大会に対して 2013 年度予算で大会開催費を支払ったように、今後も会計年度の切り替わりを待たず 6 月末日までに入金を行うこととした。

(4) 2014 年度事業計画（案）および予算（案）について

長尾事務局長より、資料に基づき説明があり、そのうち予算案について、剰余金の額が大きくなりすぎていることにかかる問題点が指摘され、協議の結果、委員会・

WGや支部に対して、活動の実態に応じて費用の補助を行うよう、2014年度予算案に具体的に盛り込むこととした。また、年会費の長期未納者について退会扱いとするため、次回理事会でその候補者リストを提示することとした。

(5) 高良記念研究助成について

牛山委員長欠席につき長尾事務局長より、資料に基づき説明があり、高良記念研究助成審査委員会での審査結果を経て示された、助成対象者を応募者3名のうち上位2名とする案が承認された。

(6) 会則等の改正について

長尾事務局長より資料に基づき説明があり、会則等の見直しに関する素案と、同案に対して役員から寄せられた意見について原文のまま集約した資料をもとに、意見の一つひとつを具体的に確認した。協議の結果、役員からの意見を参考に素案に一部修正を施したうえでこれを成案とし、総会にかけることとなった。

2014年度第2回理事会 (9/5@北九州市立大学)

(1) 総会議題について

長尾事務局長より、総会の議題について説明があり、一部文言や数値の不備を修正のうえ了承された。

(3) 次期大会校について

吉本会長より、第16回大会の開催校について、安孫子副会長・関西支部長に近畿大学での開催を快諾していただいた旨、報告があり、了承された。それをうけ安孫子副会長・関西支部長より、来年9月の開催を念頭においている旨、報告があった。

(4) その他

長尾事務局長より、年会費を3年間以上未納の会員計20件について席上配布の資料(のちに回収)に基づき報告があり、審議の結果、20件すべてについて会則第8条2.を適用し自然退会の扱いとすることで了承された。

(事務局)

2014年度総会報告

2014年度総会が、2014年9月6日(土)北九州市立大学において開催され、以下の報告・審議が行われました。

(1) 2013年度 事業報告

長尾事務局長より資料に基づき説明があり、承認された。

(2) 2013年度 決算報告および2013年度 監査報告

事務局長より資料に基づき説明があった。その後、澤田監事より監査報告を行い承認された((1)・(2)の詳細は「2013年度事業報告及び決算報告」を参照)。

(3) 会則の改正について

吉本会長より会則の改正(役員の選出、任期、会長・副会長・常任理事の選出)について説明があり、承認された。また、役員の任期・再任回数については経過規程が説明され、承認された(詳細は「会則改正について」を参照)。

(4) 2014年度 事業計画(案)

事務局長より資料に基づき、事業の概要について説明があり、承認された。

(5) 2014年度予算(案)について

事務局長より資料に基づき、一般会計予算案、特別会計予算案について説明があり、承認された((4)・(5)の詳細は「2014年度事業計画及び予算」を参照)。

(6) 高良記念研究助成について

牛山高良記念研究助成審査委員長より資料に基づき、助成採択の経緯が報告された。助成対象者2名が承認され、授与式が行われた(詳細は「2014年度(第8回)高良記念研究助成対象者決定」を参照)。

(7) 第16回大会について

吉本会長より、次回の全国大会を関西支部での開催とし、安孫子勇一関西支部支部長を大会実行委員長として2015年9月に近畿大学において開催を予定している旨の説明があり、承認された。(詳細は「第15回大会を開催するにあたって」のとおり)。

(事務局)

2013年度事業報告及び決算報告

「2014年度総会報告」のとおり、2013年度事業報告及び決算報告について、総会にて下記のとおり承認されました。

1. 2013年度事業期間

・2013年7月1日～2014年6月30日

2. 事業の概要

・2013年9月7～8日 第14回大会開催

会場：北海道武蔵女子短期大学、参加者81名

・2013年12月 Newsletter No.1 発行

・2013年12月『インターンシップ研究年報』第16号発行

・2014年5月 Newsletter No.2 発行

3. 総会

・2013年9月7日(北海道武蔵女子短期大学)

4. 理事会

・第1回理事会 2013年8月24日(追手門学院大学 大阪梅田サテライト)

・第2回理事会 2013年9月8日(北海道武蔵女子短期大学)

・第3回理事会 2013年11月16日(九州大学 箱崎キャンパス)

・第4回理事会 2014年3月15日(玉川大学)

・第5回理事会 2014年6月8日(北海道武蔵女子短期大学)

5. 各支部活動

(1) 北海道支部

・2014年3月25日 2013年度第1回研究会(札幌国際大学経済センターキャンパス)

・2014年6月8日 2013年度第2回研究会(北海道武蔵女子短期大学)

(2) 関東支部

・2013年12月7日 2013年度第1回研究会(目白大

- 学)
- 2014年3月15日 2013年度第2回研究会(玉川大学)
 - 2014年6月28日 2013年度第3回研究会(中央大学駿河台記念館)
- (3)関西支部
- 2013年8月23日 第8回研究会(追手門学院大学 大阪梅田サテライト)

- (4)九州支部
- 2013年11月16日 第11回研究会(九州大学 箱崎キャンパス)
 - 2014年5月10日 第12回研究会(九州大学 箱崎キャンパス)
6. 2013~14年度役員選出および委員会構成の決定
(事務局)

2013(平成25)年度 日本インターンシップ学会 収支計算書
(2013年7月1日~2014年6月30日)

【一般会計】 (単位:円)

支出の部	2013年度予算(a)	2013年度決算(b)	予実差異(b-a)	収入の部	2013年度予算(a)	2013年度決算(b)	予実差異(b-a)
事業費	1,200,000	1,281,820	81,820	会費収入	2,185,000	2,383,740	198,740
(北海道支部活動費)	100,000	100,000	0	(個人会員)	1,300,000	1,493,920	193,920
(関東支部活動費)	100,000	100,000	0	(学生会員)	65,000	90,000	25,000
(関西支部活動費)	100,000	100,000	0	(法人・団体会員)	820,000	799,820	-20,180
(九州支部活動費)	100,000	100,000	0	事業収入	0	0	0
(大会開催費)	300,000	600,000	300,000	(研究会収入)	0	0	0
(年報作成費)	500,000	281,820	-218,180	(書籍・年報等販売収入)	0	0	0
(記念事業費)	0	0	0	雑収入	178,300	183,869	5,569
(役員選挙費)	0	0	0	(受取利息)	300	98	-202
(名簿作成費)	0	0	0	(その他の収入)	0	5,010	5,010
事務管理費	1,600,000	415,586	-1,184,414	(大会開催費余剰金)	0	0	0
(通信費)	200,000	156,360	-43,640	(北海道支部余剰金)	44,000	44,111	111
(HP管理費)	100,000	37,980	-62,020	(関東支部余剰金)	2,000	2,018	18
(その他運営費)	1,300,000	221,246	-1,078,754	(関西支部余剰金)	47,000	47,700	700
積立金(特別会計へ)	100,000	100,000	0	(九州支部余剰金)	85,000	84,932	-68
予備費	4,956,220	0	-4,956,220	前年度繰越金	5,492,920	5,492,920	0
次年度繰越金		6,263,123	6,263,123	合計	7,856,220	8,060,529	204,309
合計	7,856,220	8,060,529	204,309				

(当該年度事業のみ) 2,900,000 1,797,406 -1,102,594 (当該年度事業のみ) 2,363,300 2,567,609 204,309

【特別会計(高良記念研究助成)】 (単位:円)

支出の部	2013年度予算(a)	2013年度決算(b)	予実差異(b-a)	収入の部	2013年度予算(a)	2013年度決算(b)	予実差異(b-a)
2013年度研究助成金(2件採択)	200,000	200,000	0	受取利息	50	55	5
振込手数料	1,000	1,416	416	余剰金	0	0	0
				その他	0	10	10
予備費	546,643		-546,643	積立金(一般会計より)	100,000	100,000	0
次年度繰越金		546,242	546,242	前年度繰越金	647,593	647,593	0
合計	747,643	747,658	15	合計	747,643	747,658	15

2013(平成25)年度 貸借対照表兼財産目録(2014.6.30現在)

資産の部		負債・純資産の部	
流動資産	6,809,365	(負債の部)	
手持現金(北大)	7,448	流動負債	0
手持現金(鳥取大)	1,455	流動負債	0
預金	6,800,462	固定負債	0
北洋銀行(一般会計)	162,467		
山陰合同銀行(一般会計)	43,329		
北洋銀行(特別会計)	0		
山陰合同銀行(特別会計)	546,242	(純資産の部)	
郵便振替口座	6,048,424	剰余金	6,809,365
		(一般会計繰越金)	6,263,123
固定資産	0	(特別会計繰越金)	546,242
資産合計	6,809,365	負債・純資産合計	6,809,365

(注) 本来は貸借対照表と財産目録を個別作成する必要があるが、財産が僅少のため当面本表にて対応することとする。

2014 年度事業計画及び予算

「2014 年度総会報告」のとおり、2014 年度事業計画ならびに予算について、総会にて下記のとおり承認されました。

2014 年度 年間事業計画

1. 2014 年度事業期間

2014 年 7 月 1 日～2015 年 6 月 30 日

2. 事業の概要

(1) 第 15 回大会の開催 (会場：北九州市立大学)

2014 年 9 月 6 日 (土) ～7 日 (日)

(2) 支部研究会の開催と充実 (各支部年 2～3 回程度)

(3) 『インターンシップ研究年報』17 号の刊行

(4) 研究論文作成に向けてのワークショップの開催

(5) 「2014 年度 高良記念研究助成」実施

(6) 榎本記念賞 (仮称) の創設

(7) News Letter の発行 (年 2 回)

(8) 会員名簿の作成

(9) 理事、会長選挙の実施

(10) その他

(事務局)

2014(平成26)年度 日本インターンシップ学会 一般会計 予算

一般会計【収入の部】

(単位:円)

大科目	中科目	2014年度予算額	前年度予算額	2013年度実績	2012年度実績	2011年度実績	予算増減
会費収入	小計	2,385,000	2,185,000	2,383,740	2,399,820	1,039,820	200,000
	個人会員(10,000円)	1,500,000	1,300,000	1,493,920	1,470,000	740,000	200,000
	学生会員(5,000円)	65,000	65,000	90,000	70,000	40,000	0
	法人・団体会員(20,000円)	820,000	820,000	799,820	859,820	259,820	0
事業収入	小計	0	0	0	0	0	0
	研究会収入	0	0	0	0	0	0
	書籍・年報等販売収入	0	0	0	0	0	0
雑収入	小計	300	178,300	183,869	324,092	121,267	-178,000
	受取利息	300	300	98	217	303	0
	その他の収入	0	0	5,010	103,000	0	0
	大会開催費余剰金	0	0	0	0	0	0
	北海道支部余剰金	0	44,000	44,111	78,141	19,826	-44,000
	関東支部余剰金	0	2,000	2,018	382	11,085	-2,000
	関西支部余剰金	0	47,000	47,700	100,000	17,522	-47,000
	九州支部余剰金	0	85,000	84,932	42,352	72,531	-85,000
	当期収入合計(A)		2,385,300	2,363,300	2,567,609	2,723,912	1,161,087
前期繰越収支差額		6,263,123	5,492,920	5,492,920	5,068,620	5,539,605	770,203
収入合計(B)		8,648,423	7,856,220	8,060,529	7,792,532	6,700,692	792,203

一般会計【支出の部】

大科目	中科目	2014年度予算額	前年度予算額	2013年度実績	2012年度実績	2011年度実績	予算増減
事業費	小計	1,750,000	1,200,000	1,281,820	1,360,755	1,271,788	550,000
	北海道支部活動費	150,000	100,000	100,000	100,000	100,000	50,000
	関東支部活動費	150,000	100,000	100,000	100,000	100,000	50,000
	関西支部活動費	150,000	100,000	100,000	100,000	100,000	50,000
	九州支部活動費	150,000	100,000	100,000	100,000	100,000	50,000
	大会開催費(大会開催準備費)	300,000	300,000	*600,000	300,000	300,000	0
	年報作成費	500,000	500,000	281,820	426,195	277,620	0
	記念事業費	0	0	0	0	294,168	0
	役員選挙費	150,000	0	0	103,310	0	150,000
	名簿作成費	200,000	0	0	131,250	0	200,000
	事務管理費	小計	2,000,000	1,600,000	415,586	438,857	360,284
通信費(郵送料等)		200,000	200,000	156,360	120,322	83,654	0
HP管理費		100,000	100,000	37,980	37,800	38,115	0
役員・委員等旅費補助		900,000	0	0	0	0	900,000
業務外部委託費		400,000	0	0	0	0	400,000
その他運営費		400,000	1,300,000	221,246	280,735	238,515	-900,000
当期支出小計	3,750,000	2,800,000	1,797,406	1,799,612	1,632,072	950,000	
特別会計へ	積立金	200,000	100,000	100,000	500,000	0	100,000
予備費	予備費	4,798,423	4,956,220	0	0	0	-157,797
当期支出合計(C)		8,748,423	7,856,220	1,797,406	1,799,612	1,632,072	892,203
当期収支差額(A)-(C)		-6,263,123	-5,492,920	770,203	924,300	-470,985	-770,203
次期繰越収支差額(B)-(C)		0	0	6,263,123	5,492,920	5,068,620	0

*大会開催準備費は、2014年度大会分から前年度渡しに変更

2014(平成26)年度 日本インターンシップ学会 特別会計 予算

特別会計【収入の部】

(単位:円)

大科目	中科目	2014年度予算額	前年度予算額	2013年度実績	2012年度実績	予算増減
寄付金		0	0	0	0	0
積立金	小計	200,000	100,000	100,000	500,000	100,000
	一般会計より	200,000	100,000	100,000	500,000	100,000
雑収入	小計	50	50	65	44	0
	受取利息	50	50	55	44	0
	その他の収入	0	0	10	0	0
当期収入合計(A)		200,050	100,050	100,065	500,044	100,000
前期繰越収支差額		546,242	647,593	647,593	348,493	-101,351
収入合計(B)		746,292	747,643	747,658	848,537	-1,351

特別会計【支出の部】

大科目	中科目	2014年度予算額	前年度予算額	2013年度実績	2012年度実績	予算増減
特別事業費		300,000	200,000	200,000	200,000	100,000
	高良記念研究助成事業	200,000	200,000	200,000	200,000	0
	榎本記念賞事業費	100,000	0	0	0	100,000
事務管理費	小計	1,000	1,000	1,416	944	0
	振込手数料	1,000	1,000	1,416	944	0
	その他	0	0	0	0	0
予備費	予備費	445,292	546,643	0	0	-101,351
当期支出合計(C)		746,292	747,643	201,416	200,944	-1,351
当期収支差額(A)-(C)		-546,262	-647,593	-101,351	299,100	101,331
次期繰越収支差額(B)-(C)		0	0	546,242	647,593	0

会則改正について

「2014年度総会報告」のとおり、総会にて下記のとおり会則が改正されました。

【会 則】

(旧)
(役員) 第10条 本会に次の役員を置く。 理事 30名以内 うち 会長 1名、副会長 3名、常任理事 10名以内 監事 2名 事務局長 1名
(役員を選任) 第11条 理事は、会員による選挙及び会長による指名によって、原則として個人会員の中から選出し、これを総会で承認する。 2. 選挙による理事は20名とし、選挙の手続は別に定める。 3. 会長、副会長、常任理事は原則として選挙によって選出された理事の互選とする。 4. 会長指名の理事は若干名とする。 5. 監事は、総会において個人会員の中から選任する。 6. 事務局長は、会長が指名する。
(役員任期) 第13条 役員任期は2事業年度とする。但し、再任を妨げない。 2. 補欠の役員任期は前任者の残任期間とする。

(新)
(役員) 第10条 本会に次の役員を置く。 理事 20名以内 うち 会長 1名、副会長 3名以内、常任理事 5名以内 監事 2名 事務局長 1名
(役員を選任) 第11条 理事は、会員による選挙及び会長による指名によって、原則として個人会員の中から選出し、これを総会で承認する。 2. 選挙による理事は15名とし、選挙の手続は別に定める。 3. 会長、副会長、常任理事は選挙によって選出された理事の互選とし、その手続は別に定める。 4. 会長指名の理事は若干名とする。 5. 監事は、総会において個人会員の中から選任する。 6. 事務局長は、会長が指名する。
(役員任期) 第13条 役員任期は2事業年度とする。但し、再任を妨げない。 2. 役員再任は2回を超えないものとし、連続在任期間は3期6事業年度を限度とする。 3. 補欠の役員任期は前任者の残任期間とする。

【会長、副会長、常任理事選出規程】(※旧:会長選挙規程)

(旧)
<p>日本インターンシップ学会 会長選挙規程</p> <p>1. 会長選挙における選挙権及び被選挙権は、当該選挙の直前に行われた理事選挙により選出された20名(以下「新理事候補」という)にあるものとする。</p> <p>2. 選挙は選挙管理委員会がこれを統括する。</p> <p>3. 投票は無記名で行い、被選挙人の中から1名を記入する。投票は郵送で行う。</p> <p>4. 最も得票数の多い者を当選者とする。同点者が生じた場合は抽選による。</p> <p>本会長選挙規程は、会則第11条に基づき平成22年12月11日から施行する。</p>

【会則(役員の任期・再任回数)の改定にかかる経過規程】

(新設)
<p>(会則改定前の連続在任期間に応じた再任可能回数の扱い) 2013 - 2014年度の任期満了時点での連続在任期間に応じて、次回選挙以降に再任可能な期間を次のとおりとする。</p> <p>①在任期間が連続3期6事業年度までの役員...再任は2回まで(次回選挙から数えて連続3回6事業年度を限度)</p> <p>②在任期間が連続4期8事業年度の役員.....再任は1回まで(次回選挙から数えて連続2回4事業年度を限度)</p> <p>③在任期間が連続5期10事業年度以上の役員...再任なし(次回選挙から数えて1回2事業年度のみ)</p> <p>本規程は、会則第13条に基づき2014年9月6日から施行する。</p>

(事務局)

(新)
<p>(会長の選出)</p> <p>1. 会長の選出は、選挙により行う。</p> <p>2. 会長選挙における選挙権及び被選挙権は、当該選挙の直前に行われた理事選挙により選出された15名(以下「新理事候補」という)にあるものとする。</p> <p>3. 選挙は選挙管理委員会がこれを統括する。</p> <p>4. 投票は無記名で行い、被選挙人の中から1名を記入する。投票は郵送で行う。</p> <p>5. 最も得票数の多い者を当選者として新会長候補とする。同点者が生じた場合は抽選による。</p>
<p>(削除)</p>
<p>(副会長、常任理事の選出)</p> <p>6. 副会長、常任理事の選出は、新会長候補を議長とし、原則として新会長候補の推薦に基づき新理事候補の合議によるものとする。</p> <p>本規程は、会則第11条に基づき2014年9月6日から施行する。</p>

年報編集委員会報告

『インターンシップ研究年報』第17号について

現在、『インターンシップ研究年報』第17号の編集の最終段階を迎えております。今回は「研究論文」(論文及び研究ノート)として7本の投稿がありました。専門分野の会員による査読を行い、編集委員会で慎重に検討した結果、「論文」として1本、「研究ノート」として1本を採択いたしました。また、「資料」には1件の投稿があり、会員の研究・実践に十分資する内容でしたので、委員会から寄稿を依頼した1件を加え、あわせて2件を収録いたしました。

『インターンシップ研究年報』第18号への投稿のお願い

並行して、『インターンシップ研究年報』第18号への投稿を募集いたします。本年報では、以下の区分により投稿を募集しておりますので、投稿に当たっては、希望する区分を明記の上、投稿をお願いいたします。

(1)「研究論文」

- ①「論文」(一定の研究成果をまとめたもの)
- ②「研究ノート」(「論文」に準ずる研究成果をまとめたもの、もしくは研究の基礎となる情報をまとめたもの)

(2)「資料」(報告・資料等会員のさらなる研究・実践活動に資するもの)

原稿は、電子メールにファイルを添付して以下のアドレスに送信して下さい。

- ・締切：2015年1月20日(火)(厳守)
 - ・送信先：日本インターンシップ学会年報編集委員会
 - ・E-mail: jsi-bec@js-internship.jp
- (昨年度のメールアドレスと異なっておりますのでご注意ください。)

なお、年報18号の研究論文等投稿規定は、第17号巻末及び学会ウェブサイトに掲載しています。「研究論文」「資料」ともに、投稿規程を守っていない場合には、査読・掲載の対象から外すことがあります

【選挙管理委員会規程】

(旧)
<p>1. 選挙管理委員会(以下、「委員会」という)は、理事以外の会員を含む3名の会員を委員として組織する。</p> <p>2. 委員会に、委員長1名を置く。</p> <p>3. 委員長及び委員は理事会において決定する。</p> <p>4. 委員会は、理事選挙規程及び会長選挙規程に基づき、これらの選挙を統括する。</p> <p>本選挙管理委員会規程は、会則第11条に基づき平成22年12月11日から施行する。</p>

(新)
<p>1. (同)</p> <p>2. (同)</p> <p>3. (同)</p> <p>4. 委員会は、理事選挙規程及び会長、副会長、常任理事選出規程に基づき、理事選挙ならびに会長選挙を統括する。</p> <p>本規程は、会則第11条に基づき2014年9月6日から施行する。</p>

ので、投稿規程をしっかりと守って原稿を作成の上、投稿して下さい。

『実践を学術研究・論文作成に結びつけるために』の開催

会員の投稿論文の質の向上に向けた取組を進めるため、企画研究ワーキンググループ等との共催で『実践を学術研究・論文作成に結びつけるために』を開催することとなりました。詳細は企画研究WGの報告を参照願います。

(年報編集委員会副委員長 亀野 淳)

広報委員会報告

教員公募・インターンシップに関するイベント情報等のウェブ掲載について

会員の皆様に有益な情報を提供するために昨年度から本学会に寄せられました教員公募や研究助成に関する情報をウェブサイトへの掲載およびメルマガによる配信でご案内しております。

インターンシップに関するイベント案内等についても積極的に発信していきたいと考えております。最終的な掲載の可否は広報委員会において検討いたしますが、これら関連情報の発信を希望される方は、広報委員会宛にお問い合わせ下さい。

メルマガ配信先アドレスの登録について

学会ウェブサイトにて新着情報が掲載されるたびに現在、メルマガで会員の皆様にご案内をしております。新入会員の皆様、また法人会員の皆様で個人アドレスに配信をご希望の場合は、送信先アドレスを記載の上、広報委員会 (jsi.prc@gmail.com) までご連絡ください。

(広報委員会委員長 石田 宏之)

2014年度(第8回)高良記念研究助成対象者決定

本学会では、インターンシップに係る研究や実践活動の発展・普及のため、また会員相互の研究交流の促進を図ることを目的として、優れた研究課題へ研究助成を行っています。2014年度(第8回)研究助成には、3件の応募があり、審査委員会の厳正な審査により、次の2名に対し研究助成を行うことが理事会において決定しました。

- ・五十畑 浩平会員(香川大学研究戦略室 特命助教)
「フランスのインターンシップ研究—フランスの特徴とそのキャリア開発効果—」
助成額 10万円、単独研究
- ・傅 振九会員(北海道大学大学院教育学院 博士後期課程)
「中国の院生区分政策における就職への取り組みと評価—日本の専門職大学院と比較する視点から—」

助成額 10万円、単独研究

研究期間は2015年9月末までの1年間で、2015年の大会において研究成果を発表することになります。また、その1ヵ月後までに「研究終了報告書」と「研究経費使用報告書」を学会事務局に提出いただきます。

2013年度研究助成を受けた2名及び2012年度研究助成を受けた2名のうちの1名の研究成果が2014年9月の第15回大会(北九州市立大学)において発表されました。

- ・川端 由美子会員(新潟大学教育・学生支援機構キャリアセンター)
「大学生のインターンシップに対する意識と参加意向—1年生を対象にしたアンケート調査から—」
- ・松尾 哲也会員(島根県立大学キャリアセンター 副センター長 講師)
「インターンシップにおける社会人基礎力の意義—「結节点」としての社会人基礎力—」
- ・張 琳会員(同済大学本科における職業教育教員養成の資源開発プロジェクト)
「中国高等職業教育の教員養成課程における教育実習と企業実習の効果—卒業生のインタビュー調査を中心として—」

なお、2015年度(第9回)の研究助成応募期間は来年4月~6月を予定しておりますが、詳細は次号のNEWS LETTERにてご連絡します。

(高良記念研究助成審査委員長 牛山 佳菜代)

企画研究WG報告

2014年度における本WGの大きな任務は、①日々の実践を学術研究に結びつけていくための方策の検討、②本学会の国際的な対応の2点です。

前者については、年報編集委員会等との共催で以下の予定で『実践を学術研究・論文作成に結びつけるために』と題したセミナーを下記のとおり開催いたします。会員が各自の実践活動を相対化して観察する研究活動を行い、その観察を研究論文としてまとめるために、今どのような課題があるのか、報告とそれらをもとにディスカッションを行います。

これは2012年12月に東京で開催したものをさらに地方支部の協力を得ながら実施するものです。今後はこうした取組を他の地方でも開催したいと考えております。

- ・日時：2014年11月30日(日) 10:00~13:00
(受付9:30~)
- ・場所：北海道大学・高等教育推進機構・共用多目的教室(1)(情報教育館4階)

URL

<http://js-internship.jp/kenkyu-kai/seminar-20141130.pdf>

後者については、インターンシップや WIL (Work Integrated Learning : 職業統合的学習) の国際的組織である WACE(the World Association for Cooperative & Work-Integrated Education)の大会への協力を考えています。2015年8月に世界大会が京都で開催されることとなりました。会員各位の研究成果を海外に発信することや海外の実践、研究を学ぶことは、今後の本学会、学会員の発展・向上に資することから、本大会において発表を予定している会員に対しては何かの支援を検討しております。詳細が決定しましたら学会ウェブサイト等でご連絡いたします。

(企画研究 WG 委員長 亀野 淳)

楨本記念賞 WG 報告

秀逸なるインターンシップの選定方針決定

去る8月23日に、楨本記念賞 WG を開催し、次の選定基準での評価方針が決定されました。

「秀逸なるインターンシップ」について、どのような人材が醸成されたか、その工夫や要因は何であったかという基本概念は変わっていませんが、評価基準を次のように広くかつ明確に取り決めました。

各支部における楨本記念賞 WG 委員経由で、候補事例の報告をお願いいたします。

①対象候補：2011年9月以降2015年9月学会発表までの期間に、会員・非会員を問わず支部研究会ないし学会大会で発表された就業体験（インターンシップ）の事例

②対象校：中等教育機関から高等教育機関と幅広く募集

③評価基準：

- ・学校が組織（学部・学科）として公認したインターンシップ
- ・熱心に指導している教職員の有無
- ・シラバス（教育指導内容）の充実度
- ・受講生の規模
- ・協力度の高い受入先の開拓並びに開拓状況
- ・育成された能力（汎用能力、エンプロイヤビリティなど就業能力）
- ・受入先の評価
- ・受講した学生の評価

(楨本記念賞 WG 委員長 田中 宣秀)

支部活動報告

北海道支部

北海道支部 2013 年度第 2 回研究会を開催

2014年6月8日(日)、北海道武蔵短期大学にて、北海道支部第2回研究会を開催いたしました。吉本会長をはじめ、学会理事・支部会員など延べ20名の方にご参加いただきました。

今回の研究会は、前半を研究発表、後半を他大学プロジェクトとのジョイント研究会として、二部構

成で実施いたしました。まず研究発表として椿明美会員から「インターンシップとキャリア教育の体系化」に関する発表が行われました。この研究は本学会メンバーを中心に研究体制が敷かれ、インターンシップを軸とするキャリア教育の実施を調査・検討するものです。2011年3月から3年間の基盤研究の成果として、国内外の調査で得た情報、考察について報告がありました。

後半では「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」の北海道地域幹事校として活動している、小樽商科大学の大津晶氏を招き、本学会との共同研究会として、インターンシップが教育・産業に果たす役割について、意見交換を実施しました。今回は小樽商大を中心とする道内5大学で行われている事業の概要、進捗状況について大津氏が報告を行い、亀野支部長より、共同での研究を行う意義や課題について問題提起されました。二つの研究組織がそれぞれの視点から議論をすることで、活動の幅を広げることを目的として実施しましたが、話題は産学連携のみならず多方面に広がり、活発な議論が展開されました。今後も北海道支部では外部組織との連携を進め、学会での議論・研究成果を外部に公開して参りたいと考えております。

また、会員の投稿論文の質の向上に向けた取組を進めるため、企画研究ワーキンググループ等との共催で『実践を学術研究・論文作成に結びつけるために』を開催することとなりました。詳細は企画研究 WG の報告を参照願います。

(北海道支部事務局・広報委員 小林 純)

関東支部

関東支部 2013 年度第 3 回研究会を開催

関東支部では、6月28日、中央大学駿河台記念館において、2013年度第3回研究会を開催し、2013年度に予定していた計3回の研究会を無事終了致しました。この研究会では、東京経営者協会 労働・研究担当部長 島田薫氏をお招きし、「若年雇用を取り巻く現状と課題」と題してご講演いただくとともに、4件の研究報告がなされました。

関東支部 2014 年度第 1 回研究会及び支部総会を開催

2014年10月11日に、2014年度第1回研究会と支部総会が、玉川大学大学研究室棟において開催されました。第1回研究会では、一般財団法人日本ホテル教育センター 理事長でおられる石塚勉氏による基調講演に加えて、「ホンネでトーク インターンシップの推進と就職問題を考える」をテーマとしたシンポジウムを開催致しました。

また、支部総会では、2013年度の事業報告ならびに監査報告がなされるとともに、2014年度の関東支部事業計画(案)ならびに支部予算(案)が承認されました。これにともなう関東支部の2014年度の事業計画は、次の4点です。

1)研究会については、例年どおり計3回、実施致し

ます。開催予定は、第2回研究会が2015年2月14日(工学院大学)、第3回が2015年6月(日時・場所未定)となっています。これに加えて、今年度は、2012-2013年度に支部として継続して取り組んできた「長期インターンシップ導入に向けての検討」に関する総括をおこないます。

2) 関東支部独自のホームページの立ち上げを検討中です。また、支部会報についても、引き続き発行します。

3) 玉川大学出版部より、関東支部監修『インターンシップで身につける仕事力(仮)』を発刊致します。

4) 2015年9月に開催される全国大会での研究発表の参加奨励をおこないます。

今年度も、支部活動へのご支援とご協力をどうぞよろしくお願い致します。

(関東支部事務局・広報担当 山口 圭介)

関西支部

関西支部第9回研究会を開催

関西支部では、8月30日(土)に第9回研究会を開催しました。今回の研究会は、京都産業大学で2015年8月19日(水)～21日(金)に開催されるWACE(the World Association for Cooperative & Work-Integrated Education)の第19回世界大会に先立ち、同校「むすびわざ館」で開催された「WACE世界大会 in Kyoto プレ大会」の1分科会(午後に並行開催された8分科会の一つ)のかたちとしました。これは、WACE世界大会を本学会や関西支部が支援していることを、支部研究会のプレ大会参加を通じて表明したものです。プレ大会に参加してみて、京都産業大学関係者の皆様の本大会開催に向けての強い意欲を感じました。

支部研究会では、今年は「産学協働教育におけるインターンシップの多様性」というテーマのもと、関西エリアの国立大学における優れた取組について、3報告を集めました。

最初に、廣瀬幸弘会員(岐阜大学)から「産官学連携による岐阜大学PBL型長期インターンシッププログラム(GULIP)における基盤的能力に対する評価について」の報告がありました。次いで、田崎悦子会員(大阪教育大学)から「キャリア教育を実践できる教員養成のためのインターンシッププログラムの開発へ」の報告がありました。最後に、尾崎雅彦会員(大阪大学)から「大阪大学大学院経済学研究科『研究・調査インターンシップ講義』における実践的インターンシップへの挑戦」の報告がありました。その後、3報告への質疑応答の時間を設けたところ、熱意あふれる3報告に対してフロアから多くの質問が寄せられ、有意義な質疑応答となりました。

(関西支部・支部長 安孫子 勇一)

九州支部

九州支部第12回研究会を開催

2014年5月10日(土)に第12回研究会を九州大学文・教育人環研究棟において開催いたしました。今回は9月6日(土)・7日(日)の2日間、第15回大会を支援する重要な役割もあり、大会を意識しつつ支部のテーマを「高大接続の視点でみるインターンシッププログラム」として行われました。

今回の研究会では、まず吉本圭一支部長からテーマに対する問題提起がなされた後、野村徳之氏(ベネッセ教育総合研究所高等教育研究室・アナリスト)より「インターンシップ活動の効果を高めるために求められる高大接続の観点」として、講演いただきました。ベネッセの調査結果を用い、進学後の大学生の進路変更の意向は、不本意入学など入学大学の志望度が低いほど転学意向が高いことが示されました。また、学生に対する進学先への満足度を高めるためには、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーに基づいた学生に成長を実感させる教育プログラムが効果的であることが提言されました。

次に松高政会員(京都産業大学)より「京都産業大学におけるコープ教育の現状と課題」について大学の事例発表をしていただき、京都産業大学におけるキャリア形成支援教育の組織的な変遷からコープ教育プログラムの具体的な事例などが紹介され、京都産業大学の特長的な「オンオフ・キャンパス・フュージョン」プログラムが、教員の負担を軽減し、継続的な運営へと発展的に展開した大学と社会とのサンドイッチ型教育プログラムについて、またインターンシップ科目の運営における外部講師と専任教員との役割分担などプログラムの具体事例が示されました。興味深い報告内容に九州以外からの参加者も多く、の質疑も活発に行われ、盛会のうちに研究会を終えることができました。

また、第15回全国大会を九州支部で眞鍋実行委員長を中心に吉本支部長以下で組織を立ち上げ、運営を支援いたしました。開催校の教職員・学生スタッフの皆様の協力、また参加者の皆様のご支援を受けて滞りなく大会を実施することができました。関係の皆様には厚く御礼申し上げます。

(九州支部・広報委員 岡本 信弘)

事務局からのお知らせ

2014年度会費納入のお願い

諸般の事情によりご案内がたいへん遅くなりましたが、2014年度(2014年7月～2015年6月)分の会費納入をお願いいたします。詳しくは、本NEWS LETTERに同封しております関係書類をご参照ください。特に今年度は2015年5月に理事選挙が控えており、会費納入状況に基づく選挙人及び被選挙人の確定を行いますので、2015年1月末までに遺漏なくお納めくださいますようご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

会員情報変更の連絡について

会員の皆様には前号の NEWS LETTER お届け時に「会員情報調査票」をお送りし、ご所属やご住所等の変更をお申し出いただいた分につきましては（ご協力ありがとうございました）、本 NEWS LETTER 巻末の「所属・住所等変更」欄に記載しております。その後、ご自身の会員情報に変更が生じている方がおられましたら、事務局までその旨お届けください。特に、連絡先が不明になりますと、年報、NEWS LETTER、大会案内などの会員サービスが受けられなくなりますので、ご注意ください。

(事務局)

日本インターンシップ学会 News Letter 2014 No.1

平成 26 年 11 月 24 日発行

発行 日本インターンシップ学会 会長 吉本 圭一

編集 日本インターンシップ学会広報委員会 委員長 石田 宏之

印刷 日本インターンシップ学会事務局 事務局長 長尾 博暢

〒680-8550 鳥取県鳥取市湖山町南 4 丁目 101

鳥取大学 大学教育支援機構 キャリアセンター内

E-mail jsi-sec@js-internship.jp

電話 0857-31-5191 (事務局長直通) FAX 0857-31-5559 (キャリアセンター共通)

Website <http://www.js-internship.jp/>